

# HB通信

編集・発行 /  
一般社団法人  
ひょうご部落解放・人権研究所



〒650-0003 神戸市中央区山本通 4-22-25 兵庫人権会館 2階  
TEL: 078-252-8280 FAX: 078-252-8281  
e-mail: blrhgy@extra.ocn.ne.jp URL: <http://blrhgy.org/>



## 所長の諏訪山だより

### 公正採用選考の「常識」と「非常識」

富山市に本社を置く東証1部上場の機械メーカーである不二越の本間博夫会長が「富山県出身者は閉鎖された考え方が強いので、富山で生まれ育った人は極力採らない」と発言したという。これはある民放テレビ局のモーニングショー番組が取り上げ、そのあと各全国紙が報道したので、このテレビ番組のスcoopだったのだろう。その番組では、コメンテーターたちが「富山県民は閉鎖的な考え方をする人が多いのか」などと、まったく的外れな議論をしたり、「経営者が利益が上がると考えたうえで決めた採用基準なら仕方ない」とまで言うコメンテーターもいて、会長の発言が公正採用選考から大きく逸脱したものであるという問題性を指摘する人はいなかった。

採用にあたっては、求職者の能力ややる気など、本人にかかわる事項のみを判断材料とし、本人の力ではどうしようもない出生地や親の職業、家族構成などは考慮に入れてはならないのであって、こうした公正採用選考は企業の社会的責任なのである。今回、この認識に欠けている企業トップがいたということだ。

企業の採用面接で親の職業や家族構成を求職者に聞くのは明らかな違反質問であり、このことは企業の人事担当者にとって、いわば「常識」となっている。外食の頻度を聞くことも違反質問である。本人の能力・やる気とは、何ら関係がないからだ。しかし、こうした「常識」を理解している人は、それほど多くないのかもしれない。

ある民放の情報番組で、採用面接で求職者にきょうだいの有無を聞くことは違反質問となっていると紹介されたとき、出演者たちが「家族構成ぐらい聞いてもええんちゃうのん」と発言し、数日後のその番組で公正採用選考について電話取材を受けた経験が筆者にはあるが、「家族構成ぐらいええんちゃうのん」というのが多くの人たちの認識なのだろう。

現在、企業の採用選考の面接で違反事例としてあがるのは、役員が出てくる最終面接で求職者の緊張をほぐそうとして役員が「きょうだいはいるの？」と質問したという事例などが多い。公正採用選考の「常識」が企業のトップにまでは及んでいないことがまだあるのだ。その典型例が今回の不二越会長の発言といえる。

公正採用選考の「常識」が企業の人事担当者や学校の就職指導担当者などのあいだに留まっ  
ていてはならないのである。

所長 石元清英

2017年度『人権歴史マップ』連続セミナー③

## 「但馬在日朝鮮人の軌跡」

- 講師：太田修さん（同志社大学教授）
- 日時：2017年9月16日（土）14：00～16：00
- 場所：兵庫県立のじぎく会館（ふれあいルーム）
- 参加資料代：【一般】800円【会員・定期購読・学生】500円



多くの朝鮮人が工事に従事した城崎芦谷トンネル

2017年度第3回の『人権歴史マップ』連続セミナーでは、同志社大学教授で『朝鮮近現代史を歩く 京都からソウルへ』（思文閣出版、2009年）等の著作のある太田修さんに、但馬における在日朝鮮人の軌跡についてご講演いただきます。

## ■ 第4回

## フィールドワーク「朝日新聞阪神支局襲撃事件」

日時：11月18日（土）14：00～16：00  
 ※詳細が決まり次第、ホームページ等でお知らせします。

## ■ 第5回

## 「兵庫の朝鮮通信使」

講師：仲尾 宏さん（京都造形芸術大学客員教授）  
 日時：2018年3月10日（土）14：00～16：00  
 場所：未定

## 部落解放研究第38回兵庫県集会

- 日時：2017年10月14日（土）
- 場所：神戸市勤労会館 神戸市中央区雲井通5丁目1-2
- 参加費：3,000円（資料・報告書）／学生・障害者1,500円
- 弁当代：1,000円（希望者のみ）※別途お申し込みが必要です
- お申込：部落解放研究第38回兵庫県集会実行委員会事務局

【一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所】

神戸市中央区山本通4-22-25 兵庫人権会館2階

TEL：078-252-8280 FAX：078-252-8281 Mail：blrhyg@extra.ocn.ne.jp

## ■ 記念講演

『性とは？自分らしさとは？—セクシュアルマイノリティの人権課題』

講師：仲岡しゅんさん（弁護士）

【プロフィール】

MTF（男=Maleから女=Female）のトランスジェンダー（性別越境者）。大学在学中は人権問題サークルで活動。知的障害者ヘルパー、学童保育指導員などの活動を経て、現職。戸籍上は男性のまま、女性として弁護士登録。各地でジェンダー、セクシュアルマイノリティ、人権問題などをテーマに講演活動も行っている。



### 第1分科会「今も残る部落地名総鑑事件と人権啓発のとりのくみ」

昨年12月「部落差別解消推進法」が公布・施行されました。この法律は救済制度や規制のない理念法ではありますが、憲政史上初めて「部落差別」が現存していることを認め、許されないものである、と明言した画期的なものです。この分科会では、新たな「地名総鑑事件」とも呼べる鳥取ループ・示現舎による『全国部落調査』復刻版の出版を例にあげ、今なお現存する差別と闘い、啓発するには何が必要か、ともに考えます。

### 第2分科会「沖縄の問題は、人ごとですか？～映像から考える沖縄の現実」

繰り返される米軍による暴行事件、多くの沖縄県民の反対を黙殺した辺野古の新基地建設、軍事の「標的」とされる沖縄の現実——私たちは、報道で知ることがあっても、どこか遠いところの話ととらえていないでしょうか。この分科会ではドキュメンタリー映画を通して、沖縄だけに背負わせている様々な問題について、ともに考えます。

**映画上映：「標的の島 風かたか」**

▶監督・ナレーション：三上智恵 ▶製作：DOCUMENTARY JAPAN、東風、三上智恵 ▶配給：東風 ▶2017年/日本/119分

### 第3分科会「道徳の教科化に対応した今後の人権教育」

1958年、小中学校に「道徳の時間」が特設されてから、長らく道徳は教科外の活動でした。しかし、2015年3月の小・中学校の学習指導要領一部改正によって、「特別の教科 道徳」として教科に格上げされることになり、小学校では2018年度、中学校では2019年度から完全実施されることになりました。

道徳に、人権教育をどう位置づけるのか、また、これまで培われてきた同和教育を次世代につなげていくにはどのようなとりのくみが必要か、ともに考えます。

### 第4分科会「障害者のいのちは健常者より軽いのですか？

#### ～相模原事件から考える」

昨年7月、神奈川県相模原市の知的障害者福祉施設で、19人の入所者が刺殺された事件は、社会に大きな衝撃を与えました。また、「障害者なんていなくなればいい」と供述する犯人の言葉は、健常者の中にある「優生思想」を問いかけてきました。

奈良崎真弓さんは、知的障害者としてこの事件に向き合い、「語る会」を開催し、各地で思いを伝える活動を続けています。この分科会では障害者と健常者の隔てなく、思いを出し合いながら、ともに生きる社会の在り方を考えます。

### 第5分科会「ヘイト・スピーチ解消法施行から1年—現状と課題」

神奈川新聞「時代の正体」取材班は、ヘイトデモを中止させるまでに至った、川崎、桜本の人々の闘いを記録し、寄り添いながら報道しました。「偏っている」との批判を浴びても「ええ、偏っていますが、何か？」と応じ、人種差別主義者を許さないという姿勢を崩していません。

昨年「ヘイト・スピーチ解消法」が施行されましたが、啓発活動はまだまだ進んでいるとは言えません。コリア NGO センターの金光敏さんは、学校現場をはじめとする社会全般への啓発を呼びかけています。神戸市でも条例制定の動きがあります。差別を許さない社会をつくるために、私たちは何をすべきなのでしょう。ともに考えます。



まんがのすゝめ

『健康で文化的な最低限度の生活』1巻～5巻（以下、続刊）

柏木ハルコ / 2014年～ / 小学館ビッグコミックス / 定価 552円 + 税

今年に入り病を得た。病気になって一番驚いたことは、想像を遙かに超えて「お金がかかる」ということだ。さほど珍しい病でもないが、週一ペースで支払う診療費が1万円前後、加えて手術、入院、検査となると、これからいくら払っていくのかと、背筋が寒くなってくる。

幸い仕事にも復帰でき、生活上の心配は今のところないけれど、病や事故、突然のできごとでたちまち困窮するということは、誰に起こっても不思議ではない。

この漫画の主人公・義経えみるは、新卒の公務員。生活保護の担当課に配属され、ケースワーカーとして働き始める。初めて出会う「困窮者」と呼ばれる人たちの生活と、彼らの生活を支えるための仕事。自分の置かれている立場がイマイチ理解できていない中、えみるははじめて担当した人から「これから死にます」という電話を受ける――。

本気だったらどうしようと思いつつも、まさか、という自分に都合のよい解釈を選んだために、電話主は翌日、本当に自死してしまい、落ち込むえみるに同僚は「ここだけの話、1ケース減って良かったと思えばいいじゃん」と慰める。

「自分は何もしらない。人生のリアリティというものが多分まだ何もない」。自分が生きてきた「社会」と、彼らが生きる「社会」の違いにぶちあたり、大きく揺さぶられながらも、えみるは人々の生活、そして命を守るため、自分の中に「確かなもの」を持ちたいと強く思うようになり、人に、仕事に向き合っていく。

生活保護者に対して、世間は「自分たちの税金で」というような非難の目を向けがちである。県内でも保護者がパチンコをしていたことが問題になり、「監視を強めよう」と市民に呼びかけた自治体があった。

日本国憲法第25条「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」。そのためのセーフティネットを自分たちの税金で運営できていると考えれば、これほど払いがいのあるものはない。当たり前のことではあるが、税金の恩恵は少なからず誰もが受けているし、また、税金はよほどとんでもないところにも使われていることも忘れてはならない。 (K)



## 事務局から

- 先日、我が家の猫ちゃんが4匹の子猫を産みました。めちゃめちゃ可愛くて日々成長していく子猫に毎日癒され、母猫のパーフェクトな子育てに関心しています。(I)
- 最近、応仁の乱がブームです。豪華キャストでこの時代を描いたものの大コケしたNHKの大河ドラマ「花の乱」(1994年)が、懐かしい。再放送しないかな。(Ka)
- 最近ちょっと体調不良。ずっと以前、友人に「若い頃のように無理がきかなくなったわ」と話したら、「身体の声が聞けるようになったということじゃない?」と言われ感心したことがあるが、もっとちゃんと聞かんとなあ、と反省。(H)
- 東日本大震災以降、鴨長明『方丈記』が静かなブームを呼んでいる。どんな出来事にも動じることのない“受け止める力”を描いていることが要因だとか。「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」。この夏に読んでみようか。(K)
- 大好きな鳥取へ、癒しを求めて(笑)墓参り。北栄町のおいしいぶどうを食べながら、砂場とすなばへ行ってきます♪(ひ)